

別添 1

基本評価シート
様式

基本評価シート

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	指定管理鳥獣捕獲等事業	事業実施年度	令和5年度
担当者部署	静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課	担当者名	渡辺大介
捕獲実施事業者	一般社団法人静岡県猟友会、 特定非営利活動法人若葉、 特定非営利活動法人天城の森 フォレストーズ倶楽部、 特定非営利活動法人おだわら イノシカネット 環境事業計画株式会社	予算額（※2）	319,268,459 円
		予算額の内捕獲に要 する経費（※3）	275,364,434 円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

2. 事業評価の概要

○事業目標

事業目標 (目標頭数などの数値目 標)	実施結果	
	捕獲頭数	その他
実施区域区分		
伊豆地域 9,100 頭	7,815 頭	
富士地域 4,350 頭	3,475 頭	
富士川以西地域 620 頭	1,485 頭	
計 14,070 頭	計 12,775 頭	

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1 達成状況の評価

[実施期間]

出産前のメスジカを捕獲できるよう、早期に契約し、計画どおり4月から捕獲を開始。3月上旬まで捕獲を継続した。

[実施区域]

(伊豆地域) 目標捕獲頭数の達成はできなかったが、推定生息頭数は、継続して減少傾向が見られる。

(富士地域) 目標捕獲頭数の達成はできなかったが、推定生息頭数は、継続して減少傾向が見られる。

(富士川以西地域) 目標捕獲頭数を上回る頭数を捕獲した。

(県全体) 捕獲頭数は、目標捕獲頭数の91%にとどまった。

[捕獲等の方法]

計画どおり認定鳥獣捕獲等事業者等に委託し、適切な猟法により捕獲を実施した。

[実施体制]

計画どおり適切な実施体制を構築し、ニホンジカの捕獲及び生息実態調査等を実施した。

[その他等]

捕獲従事者には、法令遵守の徹底するよう努めた。

2 目標に達しなかった理由・課題

- ・これまで捕獲活動を積極的に展開してきたことにより、警戒心が強くなったニホンジカが増加し、生息場所が奥山に移動するなど捕獲が困難になっている。

3 次期事業実施計画への反映

- ・隣県や市町等の関係機関と連携し、県境付近や市町境など、ニホンジカの生息密度は高いが捕獲が進んでいない捕獲困難地における捕獲業務を強化する。
- ・DXの活用による効果的な捕獲活動を推進する。

※達成状況の評価は、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画の項目ごと（実施期間、実施区域、捕獲等の方法、実施体制、その他等）に整理する。

※目標が達成されなかった場合はその理由や課題を具体的に記入する。

※評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するかも記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

伊豆・富士地域の推定生息頭数は、令和2年度以降、明確な減少傾向が見られている。
各地域個体群の個体数を減少させ、自然植生の衰退等生態系への影響や農林業被害の低減に多大に寄与している。

3. 事業実施概要

項目	概要	備考
事業背景・目的	<p>本県では、ニホンジカの個体数は増加傾向にあったが、近年の管理捕獲による捕獲頭数の増加により、推定生息頭数は減少傾向が見られ始めたものの、長期間にわたりニホンジカの生息頭数が高密度な状態が続いた結果、自然植生の衰退等、生態系への影響が危惧される場所が多く見られる。</p> <p>このため、県内全域を対象とする第二種特定鳥獣管理計画（第5期）を令和3年度末に策定し、引き続きニホンジカ対策を講じている。</p> <p>令和5年度は、指定管理鳥獣捕獲等事業を活用し、ニホンジカの生息頭数管理を目的として14,070頭を目標捕獲頭数（伊豆地域・富士地域・富士川以西地域合計）とし、また、科学的な管理を進めるための生息実態調査等を行い、適正頭数の早期実現を図った。</p>	
対象種	<input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> イノシシ	
実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日 令和5年4月10日～令和6年3月3日（捕獲実施期間）	
実施区域	伊豆地域・富士地域・富士川以西地域	事業計画の地図がある場合は、図面を添付
事業の目標	<p>目標に対する達成状況の割合 （ 91% 達成率） ＝（ 12,775 実績値）／（ 14,070 目標値）</p> <p>目標達成に向けた課題等 （伊豆地域） 伊豆半島の東海岸側の一部や西海岸側の一部等においては、捕獲従事者が少ない等の理由により捕獲が進まず、依然として高密度な地域が残っている。</p> <p>（富士地域） ニホンジカの生息密度の高い陸上自衛隊東富士演習場や国有林内で、立ち入り制限等の理由から、管理捕獲が一部区域に限られ、捕獲が進まない。こうした場所が、シカの逃げ込み場所とも</p>	

	<p>なっている。</p> <p>(富士川以西地域)</p> <p>生息密度調査の結果では、局所的に高密度となっている箇所が確認されていることから、引き続き監視を続けながら、高密度な場所対策(捕獲)に取り組む必要がある。</p>	
<p>捕獲等の手法</p>	<p>【銃猟】</p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃 <input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り <input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> 車両を用いたモバイルカリング</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <hr/> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな <input type="checkbox"/> 箱わな <input type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <hr/> <p>捕獲等の手法に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的に捕獲できる給餌誘引捕獲技術の普及。 ・メスジカをわなで選択的に捕獲できる技術の確立。 ・くくりわなの見回り手間を軽減させる仕組の確立。 ・ニホンジカ推定個体数算出手法の精度の向上。 ・ツキノワグマの錯誤捕獲を回避する技術の確立。 	<p>複数チェックあり</p> <p>各猟法の定義は下欄</p>
<p>捕獲個体の処分</p>	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <hr/> <p>捕獲個体の処分に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理方法の4割を占める現場埋設では、埋設穴の掘削、捕獲個体の運搬や処分作業が捕獲者の負担となっている。 ・食肉等へ活用する場合の課題：受け入れ先(解体施設)の受け入れ容量に限りがある。また、捕獲現場から距離がある。 ・現場埋設処分する場合の課題：臭いが強く、クマを誘引、餌付かせてしまうことがある。 	<p>複数チェックあり。</p>
<p>環境への影響への配慮</p>	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の事例を収集している。(ツキノワグマのみ)</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。</p> <hr/> <p>鳥類の鉛中毒等について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。</p> <p><input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。</p> <hr/> <p>鉛製銃弾について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。</p> <hr/> <p>環境への影響への配慮に関する課題等</p>	

	<p>くくりわなによるシカの捕獲においては、イノシシやカモシカ、ツキノワグマを錯誤捕獲しない技術は確立されていないため、現状では避けることは難しい。</p> <p>銃による捕獲で使用する弾について、非鉛製銃弾は値段が高く、また、現在は入手困難となっている。</p>	
実施体制	<p>実施体制に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民有地において、他地域の捕獲者（事業者）による捕獲をするには、地域の狩猟者（団体）の合意を得る必要がある。 ・捕獲従事者が高齢化、減少している。特に、銃猟者が減少している。 ・ニホンジカの生息密度は高いが、地域の捕獲従事者が不足している地域では、他地域の捕獲従事者が当該地域の捕獲従事者と連携し、捕獲活動を促進させる体制づくりが必要。 	体制図がある場合は図を添付
安全管理	<p>安全管理に関する課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人以上の捕獲（わなの見回りを含む）が徹底されていない。 ・近年、マダニやヤマビルなどの生息分布が拡大しており、感染症やアレルギーのリスクが高まっている。 ・ツキノワグマ錯誤捕獲時の体制が十分でない（麻醉銃での放獣対応を依頼する先が少ない）。 	

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	捕獲の一部では、捕獲情報アプリにより捕獲地点（緯度経度）を記録している
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input checked="" type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報	

	(オスの場合は角の状態)	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人工数 (人日数=出動人数×作業日数) <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな日数=わな基数×稼働日数)	

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図(地図)についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点(緯度経度)地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUEの地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点(緯度経度)地図 <input checked="" type="checkbox"/> CPUEの地図を作成できない
SPUEの地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点(緯度経度)地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUEの地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	管理捕獲は1 kmメッシュで地図が作成できるが、狩猟や被害防止目的の捕獲は、国が定めた規程により、5 kmメッシュでしか地図が作成できず、捕獲全体の1 kmメッシュ地図が作成できない。

(2) 実施結果(必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項(※)

外業の日数総数： 323 日 以上

事前調査日数概数： 不明 日

出猟(捕獲作業)日数： 323 日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量(銃猟) のべ人工数	6,817 人日	9,955 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
出猟日(銃・わな含)	323 日	316 日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
捕獲総努力量(銃+わな)	56,069 人日	68,337 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
わなの稼働総数(わな日)	479,821 日基	541,337 日基	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※ニホンジカ管理捕獲業務委託での実績値(ニホンジカ捕獲困難地管理捕獲業務委託を含めた全体の数値は不明)

イ) 捕獲に関する結果(※)

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	12,775	13,056	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

②目撃数	7,042	9,461	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	47% 5,975頭/12,775頭	48% 6,256頭/13,056頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	不明	不明	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※目撃数は、ニホンジカ管理捕獲業務委託での実績値(ニホンジカ捕獲困難地管理捕獲業務委託を含めた全体の数値は不明)

ウ) 捕獲効率・目撃効率(※)

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
① CPUE	0.18	0.16	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② SPUE	0.13	0.14	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※ニホンジカ管理捕獲業務委託での実績値(ニホンジカ捕獲困難地管理捕獲業務委託を含めた全体の数値は不明)

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 不明 人日

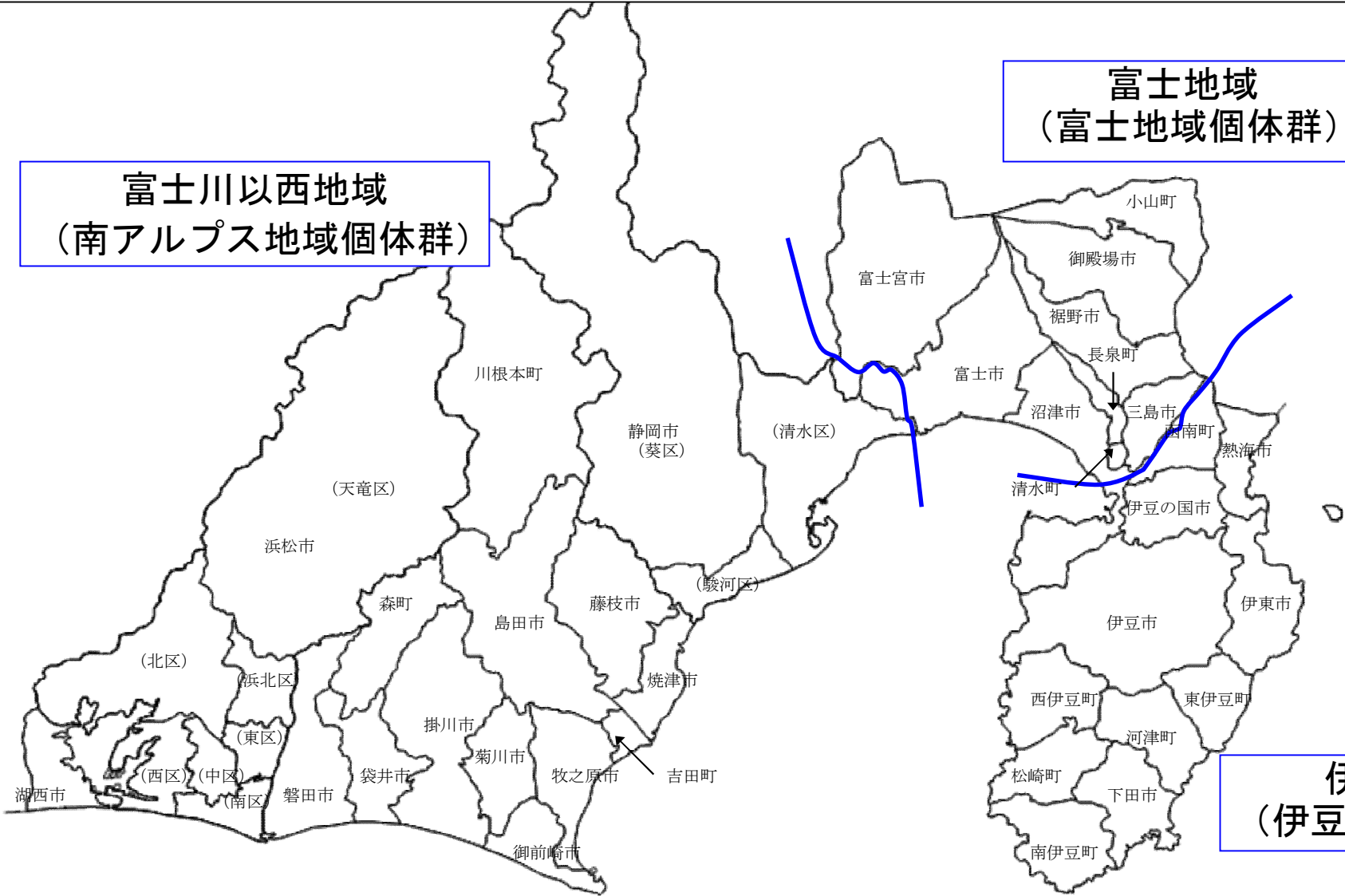
処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 8,108 個体

<p>適正な捕獲が実施されたかを確認する手法</p> <p>各捕獲個体について、捕獲個体記録票、捕獲個体の写真及び部位(尾)を確認している。</p>

猟法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

令和5年度 指定管理鳥獣捕獲等事業交付金事業 実施位置図



別添 2

付属評価シート
様式

付属評価シート

付属評価シートでは、基本評価シートを補足する資料として、事業の費用対効果、個体群に与えた効果、環境への負荷等を評価する。特に、指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目は、指定管理鳥獣捕獲等事業の単年度の事業評価に直接的に関係する情報として、収集することを推奨する項目である。

なお、ここに示す項目以外に各都道府県において事業評価のために必要な項目がある場合は、必要に応じて項目を追加して構いません。

1. 指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目

(1) 費用・労力に関する項目

事業に要した費用に対する実施結果の評価は、単に、捕獲頭数当たりの総事業費で算定をするのではなく、捕獲や捕獲以外に要している労力を加味した評価とすること。

費用・労力に関する評価項目	定量的評価の算定	評価する上での課題等
捕獲作業に割ける労力	捕獲経費のしめる割合＝捕獲経費÷総事業費 (85.1%) = (232,875,722) / (273,787,170)	
事業全体の中で捕獲作業以外に割く労力	事前調査に要する労力 以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 調査等の事業費÷総事業費 (25,990,268) / (273,787,170) <input type="checkbox"/> 総人工数に対する調査に要する人工数の割合 (調査人工概数) / (総人工数) <input type="checkbox"/> その他 ()	
	移動に要する労力 <input type="checkbox"/> 最も遠い作業場所において、一日当たりに要した移動時間と捕獲作業のために確保できた実働時間の例を記入 (移動時間) + (実働時間) <input type="checkbox"/> その他の算定方法 ()	
	捕獲個体の処理に要する労力 以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input type="checkbox"/> 処理費÷総事業費 () / () <input type="checkbox"/> 総人工数に対する処分に要する人工数の割合	

	(処分人工概数) / (総人工数) <input type="checkbox"/> その他 ()	
--	--	--

(2) 個体数の推定等に用いた生息密度指標 (CPUE、SPUE を除く)

指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域内において定点のある生息密度指標調査について、該当項目チェック欄にチェックする。

項目チェック欄	生息密度指標チェック欄	備考
<input checked="" type="checkbox"/> 生息密度	<input type="checkbox"/> 区画法	
	<input checked="" type="checkbox"/> 糞粒法	
	<input type="checkbox"/> 糞塊法	
	<input type="checkbox"/> ライトセンサス法	
	<input type="checkbox"/> 無人撮影装置	
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
<input checked="" type="checkbox"/> 密度指標を、地理情報で把握している。	<input type="checkbox"/> 5km メッシュ	生息密度指標を図化できる場合、概況図を添付する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 1 km メッシュ	
	<input checked="" type="checkbox"/> 地点 (緯度経度)	
	<input type="checkbox"/> 定点	

※ニホンジカについて、経年的に生息密度を比較するための指標として糞塊法が有効であると考えられており、これまで実施してきた調査手法と合わせ、糞塊法による調査も有効であると考えられる場合は、当交付金事業で行う生息密度指標の調査は、糞塊法による調査の実施を検討願います。

(3) 自然植生への影響の軽減に関する項目

ア) 指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害状況の基礎的な調査

指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害の情報は、事業効果の測定のための基礎的な情報となる。特に、事業初年度の情報は極めて重要で、後年の事業の効果を測定するための最も基礎的な情報の一つであることから、何らかの情報を収集しておくべきである。下記のチェック項目に示す定量的なデータの他、定量的なデータを取れない場合は、事業区域内の代表的な地点の写真及び撮影位置（地点と撮影方向）を記録して、地図情報として整理しておくだけでもしておいた方がよい（後年、同じ場所で同じ方向からの写真が撮れば、比較可能である）

事業区域内における 収集項目のチェック	事業実施前又は初 年度の情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 下層植生の被度	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	事業初年度の情報は後年の事業の効果の評価の基本となる。
<input type="checkbox"/> 指定種の被度や個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 保全対象種の個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 低嗜好性植物の割合	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> ブラウジングラインの形成	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 土壌流出	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事業区域内の植生被害状況の写真	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

イ) 被害状況の基礎的な調査

数値としてのデータがない場合でも、事業開始時点の事業地の写真は、位置情報を記録した上で取得すべきである。その際、撮影位置と撮影向きが、後で分かるように記録を取得しておく。

項目	事業開始時点の値	今年度の値	増減の傾向
①下層植生被度			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②指標種の被度や個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③保全対象種の個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④低嗜好性植物の割合			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑤ブラウジングラインの形成			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑥土壌流出			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

ブラウジングラインは、「1：なし」、「2：不明瞭」、「3：明瞭」の3段階で評価。

土壌流出は、「1：ほとんどなし」、「2：にわかにより」、「3：あり」、「4：顕著」の4段階で評価。

(4) 捕獲にともなう環境への影響の評価

下記項目に関し、環境への影響に関する課題を記入する。その定量的な評価のために収集している項目があればチェックをする。集計した結果がある場合は、別添に添付する。

項目チェック欄	環境への影響に関する課題	定量的評価の算定例 (算定可能な項目にチェック)
鳥類の鉛中毒症例の把握		<input type="checkbox"/> 収容した鉛中毒症例個体の種類・数
鉛中毒防止の措置		<input type="checkbox"/> 非鉛弾の使用のための経費を計上 <input type="checkbox"/> 非鉛弾使用数を把握
錯誤捕獲の実態	くくりわなへのツキノワグマの錯誤捕獲 (R5:10件, R4:4件)	<input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の種類 <input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の捕獲頭数

(5) 鳥獣保護管理に係る人材登録者の活用状況

活用した段階ごとに、活用した登録区分の人数と活用概要を記入する。なお、活用した人数には、直接検討委員を嘱託した場合だけでなく、委託業者の従事者や事業に係る意見やアドバイスを求めた者も含めて差し支えない。

登録者の一覧は環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1-1/index.html>) を参照のこと。

活用した段階	プランナー (数)	コーディネーター(数)		活用概要
		調査	捕獲	
計画の検討・策定 (必要な調査を含む)	2		1	提案・助言指導、アドバイス
捕獲		1	2	助言指導
捕獲手法の技術開発			1	新しいわな等の開発
捕獲情報の整理・分析、事業評価・検証	2		1	捕獲手法等についての分析、評価
認定事業者等の育成			2	助言指導

2. その他の参考情報

以下は、中長期的に評価すべき項目だが、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、評価する上で重要な周辺情報として、収集する事が望まれる項目である。指定管理鳥獣捕獲等事業やその上位計画である第二種特定鳥獣管理計画の目的達成状況を計るための指標となる項目でもある。下記は、基本的に、情報の有無をチェックするものである。ただし、事業地内の植生等の被害状況は、重要な情報であるため、事業開始時点の情報がある場合は、現状を記録する。

(1) 農業被害の防止に関する項目

収集項目のチェック	情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 農業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 農業被害面積／農地面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 農地面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 林業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 林業被害面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 被害対策経費	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 被害者意識アンケート	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 電気柵の設置距離	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 防護柵の設置距離	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(2) 生活被害の防止に関する項目

収集項目のチェック	情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 交通事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 列車事故件数	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事故による死傷者数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事故位置情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 市街地目撃情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

別添 1

基本評価シート（広域捕獲計画により実施した捕獲）

様式

基本評価シート

1. 事業の基本情報

事業名(※1)	指定管理鳥獣捕獲等事業	事業実施年度	令和5年度
担当者部署	静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課	担当者名	渡辺大介
捕獲実施事業者	特定非営利活動法人 おだわらいノシカネット	予算額(※2)	6,596,205 円
		予算額の内捕獲に要 する経費(※3)	6,596,205 円

(※1) 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

(※2) 予算額は、交付金の対象となる広域捕獲計画に係る指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算。

(※3) 予算額の内、捕獲に要する経費。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

2. 事業評価の概要

○事業目標

事業目標(静岡県側) (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数(静岡県側)	その他
実施区域区分		
富土地域 250頭	347頭	
計 250頭	計 347頭	

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について(静岡県側)

1 達成状況の評価

[実施期間]

5月から10月末まで捕獲を実施。

[実施区域]

目標捕獲頭数を上回る頭数を捕獲。富土地域における県境付近の生息頭数の減少に貢献した。

[捕獲等の方法]

計画どおり、くくりわなより捕獲を実施した。

[実施体制]

計画どおり、認定鳥獣捕獲等事業者に委託し実施した。

[その他等]

捕獲従事者には、法令遵守の徹底するよう努めた。

2 次期事業実施計画への反映

- ・引き続き、神奈川県と広域捕獲計画を策定し、捕獲を推進する。

※達成状況の評価は、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画の項目ごと（実施期間、実施区域、捕獲等の方法、実施体制、その他等）に整理する。

※目標が達成されなかった場合はその理由や課題を具体的に記入する。

※評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するかも記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について（静岡県側）

富士地域の推定生息頭数は、減少傾向が見られており、自然植生の衰退等生態系への影響や農林業被害の低減に多大に寄与している。

3. 事業実施概要（静岡県側）

項目	概要	備考
事業背景・目的	<p>箱根山東麓地域には、100年以上にわたってニホンジカが生息していないと考えられていたが、1980（昭和55）年頃から目撃されるようになった。2013（平成25）年には仙石原湿原（神奈川県唯一の湿原）での生息が明らかになり、2015（平成27）年にはほぼ全域で影響が観察されるようになった。捕獲個体のDNA分析の結果、富士山・丹沢及び伊豆半島両地域由来であることが示されている。</p> <p>2021（令和3）年に実施した各種モニタリング調査により、生息分布及び植生影響が箱根山全域で急速に高まり、深刻となっている状況が示されたことから、今後、関係機関の連携による対策強化が不可欠な状況にある。</p> <p>静岡県側の箱根西麓・金時山地域には、ブナの原生林が生育する貴重な自然環境であることから、国立公園の特別保護地区及び第1種特別地域等に指定されている。しかし、近年はニホンジカの影響を大きく受け、植生が著しく衰退している。また、にんじん・いも類などの農業被害や造林地の植栽木などの森林被害も深刻化している。</p> <p>ヒメシャガ等の希少植物が生育している神奈川県側の明神ヶ岳周辺地域では、ニホンジカが定着している。また、急斜面な場所が多く、アクセスが困難な箇所が多いことから、捕獲圧に偏りが見られる。</p> <p>このため、静岡県及び神奈川県は、県境付近におけるニホンジカによる生態系への影響や農林業被害の軽減を目的として、連携して本計画を作成し、捕獲の実施に取り組んだ。</p>	
対象種	<input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> イノシシ	
実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日 令和5年5月18日～令和5年10月31日（捕獲実施期間）	
実施区域	静岡県小山町及び御殿場市	事業計画の地図がある場合は、図面を添付
事業の目標	目標に対する達成状況の割合 （139% 達成率） =（347 実績値）／（250 目標値） 目標達成に向けた課題等 当該地では初の捕獲であったので捕獲頭数が伸びたが、次年度以降も継続して捕獲頭数を維持できるよう、わな設置場所を変更するなど工夫する必要がある。	

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	捕獲情報アプリにより捕獲地点（緯度経度）を記録している
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input checked="" type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報	
③目撃数	<input type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人工数 （人日数＝出勤人数×作業日数） <input type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな日数＝わな基数×稼働日数）	

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
GPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> GPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項（※）

外業の日数総数： 167 日以上

事前調査日数概数： 不明 日

出猟（捕獲作業）日数：167 日

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人工数	0人日	－人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
出猟日（銃・わな含）	167日	－日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
捕獲総努力量（銃＋わな）	－人日	－日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
わなの稼働総数（わな日）	－日基	－日基	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

イ) 捕獲に関する結果（※）

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	347	－	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	－	－	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	44% 153頭／347頭	－ －頭／－頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	－	－	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

ウ) 捕獲効率・目撃効率（※）

項目	令和5年度 (事業年度の値)	令和4年度 (前年度の値)	増減の傾向
① CPUE	－	－	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② SPUE	－	－	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 不明 人日

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 299 個体

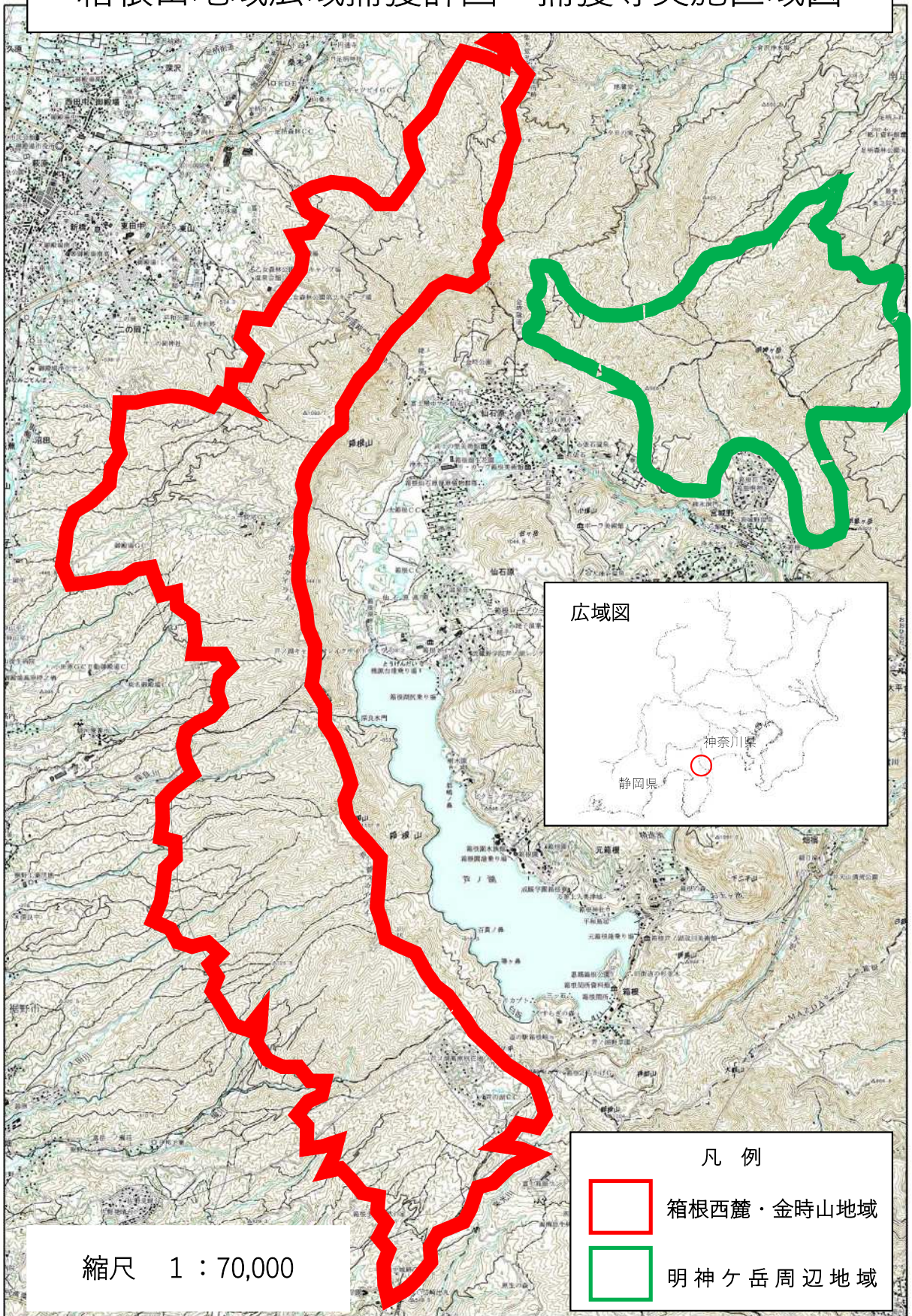
適正な捕獲が実施されたかを確認する手法 各捕獲個体について、捕獲個体記録票、捕獲個体の写真及び部位（尾）を確認している。

猟法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃

	器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

箱根山地域広域捕獲計画 捕獲等実施区域図



別添 2

付属評価シート（広域捕獲計画により実施した捕獲）

様式

付属評価シート

付属評価シートでは、基本評価シートを補足する資料として、事業の費用対効果、個体群に与えた効果、環境への負荷等を評価する。特に、指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目は、指定管理鳥獣捕獲等事業の単年度の事業評価に直接的に関係する情報として、収集することを推奨する項目である。

なお、ここに示す項目以外に各都道府県において事業評価のために必要な項目がある場合は、必要に応じて項目を追加して構いません。

1. 指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目

(1) 費用・労力に関する項目

事業に要した費用に対する実施結果の評価は、単に、捕獲頭数当たりの総事業費で算定をするのではなく、捕獲や捕獲以外に要している労力を加味した評価とすること。

費用・労力に関する評価項目	定量的評価の算定	評価する上での課題等
捕獲作業に割ける労力	捕獲経費のしめる割合＝捕獲経費÷総事業費 (100%) = (8,325,258) / (8,325,258)	
事業全体の中で捕獲作業以外に割く労力	事前調査に要する労力 以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 調査等の事業費÷総事業費 (0) / (8,325,258) <input type="checkbox"/> 総人工数に対する調査に要する人工数の割合 (調査人工概数) / (総人工数) <input type="checkbox"/> その他 ()	
	移動に要する労力 <input type="checkbox"/> 最も遠い作業場所において、一日当たりに要した移動時間と捕獲作業のために確保できた実働時間の例を記入 (移動時間) + (実働時間) <input type="checkbox"/> その他の算定方法 ()	
	捕獲個体の処理に要する労力 以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input type="checkbox"/> 処理費÷総事業費 () / () <input type="checkbox"/> 総人工数に対する処分に要する人工数の割合 (処分人工概数) / (総人工数)	

	<input type="checkbox"/> その他 ()	
--	-------------------------------------	--

(2) 個体数の推定等に用いた生息密度指標 (CPUE、SPUE を除く)

指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域内において定点のある生息密度指標調査について、該当項目チェック欄にチェックする。

項目チェック欄	生息密度指標チェック欄	備考
<input checked="" type="checkbox"/> 生息密度	<input type="checkbox"/> 区画法	
	<input checked="" type="checkbox"/> 糞粒法	
	<input type="checkbox"/> 糞塊法	
	<input type="checkbox"/> ライトセンサス法	
	<input type="checkbox"/> 無人撮影装置	
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
<input checked="" type="checkbox"/> 密度指標を、地理情報で把握している。	<input type="checkbox"/> 5km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 1km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 地点 (緯度経度) <input type="checkbox"/> 定点	生息密度指標を図化できる場合、概況図を添付する。

※ニホンジカについて、経年的に生息密度を比較するための指標として糞塊法が有効であると考えられており、これまで実施してきた調査手法と合わせ、糞塊法による調査も有効であると考えられる場合は、当交付金事業で行う生息密度指標の調査は、糞塊法による調査の実施を検討願います。

(3) 自然植生への影響の軽減に関する項目

ア) 指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害状況の基礎的な調査

指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害の情報は、事業効果の測定のための基礎的な情報となる。特に、事業初年度の情報は極めて重要で、後年の事業の効果を測定するための最も基礎的な情報の一つであることから、何らかの情報を収集しておくべきである。下記のチェック項目に示す定量的なデータの他、定量的なデータを取れない場合は、事業区域内の代表的な地点の写真及び撮影位置（地点と撮影方向）を記録して、地図情報として整理しておくだけでもしておいた方がよい（後年、同じ場所で同じ方向からの写真が撮れば、比較可能である）

事業区域内における 収集項目のチェック	事業実施前又は初 年度の情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 下層植生の被度	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	事業初年度の情報は後年の事業の効果の評価の基本となる。
<input type="checkbox"/> 指定種の被度や個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 保全対象種の個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 低嗜好性植物の割合	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> ブラウジングラインの形成	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 土壌流出	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事業区域内の植生被害状況の写真	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

イ) 被害状況の基礎的な調査

数値としてのデータがない場合でも、事業開始時点の事業地の写真は、位置情報を記録した上で取得すべきである。その際、撮影位置と撮影向きが、後で分かるように記録を取得しておく。

項目	事業開始時点の値	今年度の値	増減の傾向
①下層植生被度			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②指標種の被度や個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③保全対象種の個体数			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④低嗜好性植物の割合			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑤ブラウジングラインの形成			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑥土壌流出			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

ブラウジングラインは、「1：なし」、「2：不明瞭」、「3：明瞭」の3段階で評価。

土壌流出は、「1：ほとんどなし」、「2：にわかにより」、「3：あり」、「4：顕著」の4段階で評価。

(4) 捕獲にともなう環境への影響の評価

下記項目に関し、環境への影響に関する課題を記入する。その定量的な評価のために収集している項目があればチェックをする。集計した結果がある場合は、別添に添付する。

項目チェック欄	環境への影響に関する課題	定量的評価の算定例 (算定可能な項目にチェック)
鳥類の鉛中毒症例の把握		<input type="checkbox"/> 収容した鉛中毒症例個体の種類・数
鉛中毒防止の措置		<input type="checkbox"/> 非鉛弾の使用のための経費を計上 <input type="checkbox"/> 非鉛弾使用数を把握
錯誤捕獲の実態	くくりわなへのツキノワグマの錯誤捕獲 (R5:0件, R4:一件)	<input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の種類 <input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の捕獲頭数

(5) 鳥獣保護管理に係る人材登録者の活用状況

活用した段階ごとに、活用した登録区分の人数と活用概要を記入する。なお、活用した人数には、直接検討委員を嘱託した場合だけでなく、委託業者の従事者や事業に係る意見やアドバイスを求めた者も含めて差し支えない。

登録者の一覧は環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1-1/index.html>) を参照のこと。

活用した段階	プランナー (数)	コーディネーター(数)		活用概要
		調査	捕獲	
計画の検討・策定 (必要な調査を含む)	2			提案・助言指導、アドバイス
捕獲				助言指導
捕獲手法の技術開発				新しいわな等の開発
捕獲情報の整理・分析、事業評価・検証	2			捕獲手法等についての分析、評価
認定事業者等の育成				助言指導

2. その他の参考情報

以下は、中長期的に評価すべき項目だが、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、評価する上で重要な周辺情報として、収集する事が望まれる項目である。指定管理鳥獣捕獲等事業やその上位計画である第二種特定鳥獣管理計画の目的達成状況を計るための指標となる項目でもある。下記は、基本的に、情報の有無をチェックするものである。ただし、事業地内の植生等の被害状況は、重要な情報であるため、事業開始時点の情報がある場合は、現状を記録する。

(1) 農業被害の防止に関する項目

収集項目のチェック	情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 農業被害金額	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 農業被害面積／農地面積	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 農地面積	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 林業被害金額	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 林業被害面積	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 被害対策経費	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 被害者意識アンケート	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 電気柵の設置距離	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 防護柵の設置距離	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

(2) 生活被害の防止に関する項目

収集項目のチェック	情報の有無	備考
<input type="checkbox"/> 交通事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 列車事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事故による死傷者数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 事故位置情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> 市街地目撃情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

(別紙3)

静岡県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告）
（効果的捕獲促進事業）

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	DX(ドローン)の活用とリアルタイムでのわな設置による効果的な捕獲活動の実証
実証地域	静岡県伊豆市（捕獲困難地（達磨山地区））
実証時期	令和5年5月～令和5年11月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

ニホンジカの生息密度は高いが、捕獲体制が脆弱なため、捕獲活動が十分にできない場所において、重点的に捕獲する必要がある。

3 地域実証する技術の概要

ドローンに搭載した赤外線カメラの画像によりニホンジカの生息状況を把握し、生息分布図を作成した上で、くくりわなをリアルタイムで設置するとともに、捕獲体制を強化することで、捕獲効率が更に向上するか、また、区域内に生息しているニホンジカを捕りきるができるか実証する。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

<事業の内容>

- ・ドローンに搭載した赤外線カメラにより、ニホンジカの生息・移動状況を撮影。
- ・即時に画像を解析して、生息分布図を作成。生息分布図を基に、捕獲効率重視エリア、全頭捕獲重視エリアに分け、くくりわなによる捕獲を実施した。
- ・ドローンを活用した捕獲活動を普及するため、近隣市町や捕獲従事者、捕獲事業者を対象にドローンの研修会を開催した。



捕獲従事者への情報提供
（画像の確認・生息分布図の提供）



研修会の模様（飛行実演）

<事業の結果・効果>

- ・捕獲効率重視エリアでは、計3回の調査及び捕獲で24頭捕獲。捕獲効率は、令和3年度の伊豆地域における県管理捕獲における平均と比較し、約2.0倍となり、全頭捕獲重視エリアでは、撮影された頭数を全頭捕獲することができた。
- ・ドローンを用いることで、生息密度が高い区域で捕獲効率を向上させることだけでなく、捕獲が進んだ区域で残っているニホンジカを確実に捕獲することにも活用できることが判明した。
- ・研修の受講者がドローンを導入し、ドローンを活用した生息状況調査を行うようになった。

<事業の評価結果・改善点>

- ・捕獲体制の構築により、捕獲効率が更に向上し、ドローンの活用が捕獲活動にとって有効であることを実証できた。
- ・ドローンを活用した効率的な捕獲の手法について、その成果を県下全域の捕獲等事業者や市町に提供して、一層の普及を図っていく。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。



(別紙3)

静岡県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証計画（評価報告）
（効果的捕獲促進事業）

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	わな捕獲感知システム導入による効率的な捕獲活動の実証
実証地域	静岡県御殿場市（捕獲困難地（箱根西麓・金時山地区））
実証時期	令和5年6月～令和5年12月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

ニホンジカの捕獲強化や捕獲地の奥地化に伴い、捕獲従事者のくくりわな設置後の「見回り作業」の負担が増加している。捕獲従事者の負担軽減のため、より効率的な「見回り作業」が求められている。

3 地域実証する技術の概要

遠隔でわなの作動状況を電波受信できる技術を捕獲重点区域で試行的に導入し、同技術の実用性や見回り作業の負担軽減の効果を実証する。

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

<事業の内容>

- ・(株)アイエスイーの長距離無線通信システム「ほかパト」を使用。6月から10月の期間で、くくりわな30基（「ほかパト」：親機1基、子機30基）を設置し、捕獲活動を実施する。
- ・くくりわなによる捕獲活動において、長距離無線システムを使用することによる省力化効果を実証する。

<事業の結果・効果>

- ・親機・子機間の通信距離は、直線で約11km、子機は山間部の入り組んだ谷間に設置したが、いずれの子機も通信状況は良好で、通信が可能であった。
- ・遠隔監視により、見回り労力を5割以下に削減できた。

運用日数（日）	131日	※1 ほかパト通報日の見回り日数。わなの設置・撤去を含む。2日連続で通報がない場合は、3日目は見回りに出動。 ※2 見回り日数/運用日数
見回り日数※1（日）	63日	
見回り実施率※2（%）	48.1	

<事業の評価結果・改善点>

- ・見回り労力が大幅に削減できることを確認でき、長距離無線システムが、見回りの省力化に繋がることを明らかにした。
- ・雨風、枝葉の落下等により誤作動が生じたため、本格的な導入を図るためには、子機の設置方法を改良する必要がある。また、空はじきが通報されないため、子機の機能を改良する必要がある。

注1：2の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注2：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。



(別紙6)

静岡県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

増えすぎたニホンジカによる生態系や農林業等への被害が深刻化し、捕獲に対するニーズが高まっている。
しかし、捕獲の担い手である狩猟者は、年々減少するとともに高齢化（H30は狩猟者の約6割が60歳以上）している。
今後の野生鳥獣の捕獲従事者を確保するため、将来の捕獲業務のビジネス化を視野に入れ、安全で効率的に捕獲する技術を持った認定鳥獣捕獲等事業者を育成する必要がある。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

静岡県内の認定鳥獣捕獲等事業者において、捕獲従事者として登録されている者を対象に、ニホンジカを安全かつ効率的に捕獲できる優れた技術を持ち、今後の県内のニホンジカ管理捕獲の柱となる者を養成することを目的として、上級者向けの捕獲や安全管理（銃及びくくりわな）の研修を実施した。

【実施内容】参加者6名＋講師等7名

実施日	会場	内容
11/12（日）	清水区北部交流センター	管理捕獲の取組説明（県からの講義） ニホンジカの生態と習性について（大学教授）
11/18（土）	岩本山射撃場	射撃訓練
12/2（土）	西白塚地内	くくりわなのかけ方と山の歩き方
12/3（日）	西白塚地内	捕獲個体（12/2にかけたくくりわなで1頭捕獲） の解体と団体忍び猟の実践
1/14（日）	西白塚地内	救急救命講習と習熟度テスト

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

令和5年度は参加者6名のうち2名が女性であったことも含め、認定鳥獣捕獲等事業者の従事者に女性が増えている傾向にある。
今後は研修の受講者が実際に指定管理鳥獣捕獲等事業の従事者となるような仕組みづくりを進めていきたい。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。